

日本の松原再生運動について

ねらい

わが国に固有の緑の文化を育ててきた松原、そして国民の誰もが愛着を感じることでできる松原が衰退の危機にあります。そこで、松原保全の重要性をPRすること、保全に取り組む人たちを支援すること、次代を担う子供たちを松原に親しませることを通して、松原を救い、ふたたび元気にする運動を全国に進めます。

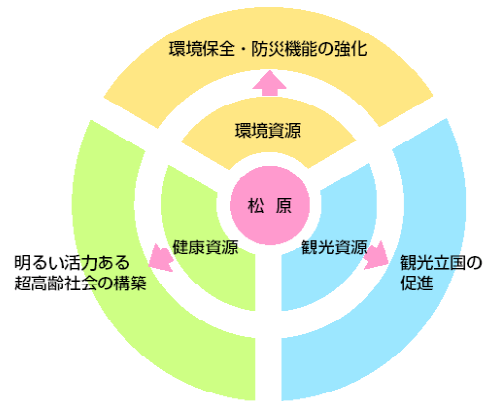
進め方

松原再生運動を各地に立ち上げるために、わかりやすい事例を作り、それを参考として全国に運動を広め、各地の松原をつなぐ「日本列島松回廊構想」を提案します。

構想のめざすもの

白砂青松の松原が衰退した原因は、マツ材線虫病の蔓延、広葉樹の侵入、松原から人々の足が遠のいたことなどです。

この構想は、松原から人々の足が遠のいてしまった点に着目して、松原の有する資源価値を高める活動を行うことを通して、地域の人たちも元気になる社会的意義へ発展させていくことにより、ふたたび地域の人たちが松原へ足を運ぶことになると考えます。



3つの資源価値

- ①松原は、砂を止め農地を保護し、地球温暖化防止に役立ち、津波被害から生命と財産を守る重要な**環境資源**。
- ②文化を育む美しい松原は、恩恵を受ける地場産業や観光産業を振興する良質な**観光資源**。
- ③松は古来より長寿の象徴とされ、歩きやすい松原は地域の人たちの有効な**健康資源**。

松原を元気にすることは
地域の人たちも
元気になる

3つの社会的意義

- ①地域の環境保全や防災機能を高める取り組みへと発展する。
- ②地域の「光」として松原を自覚することが観光立国の促進に結びつく。
- ③「明るい活力ある超高齢社会」を構築することに貢献できる。

2つの取り組み 「日本の松原再生事業」「子供の松原再生プロジェクト」

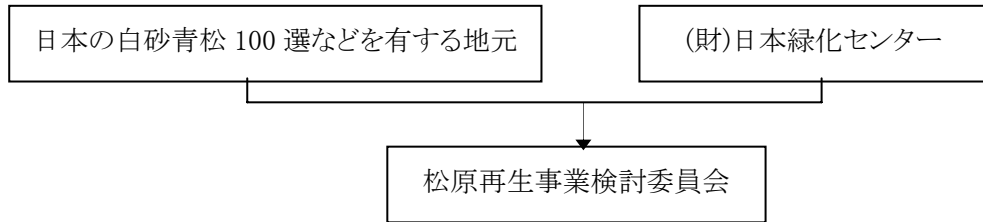
構想の位置付け

白砂青松の松原は江戸時代以降に作られ何世代にもわたって守り育てられてきました。今から始まる松原の再生は、同じように長い年月を要します。

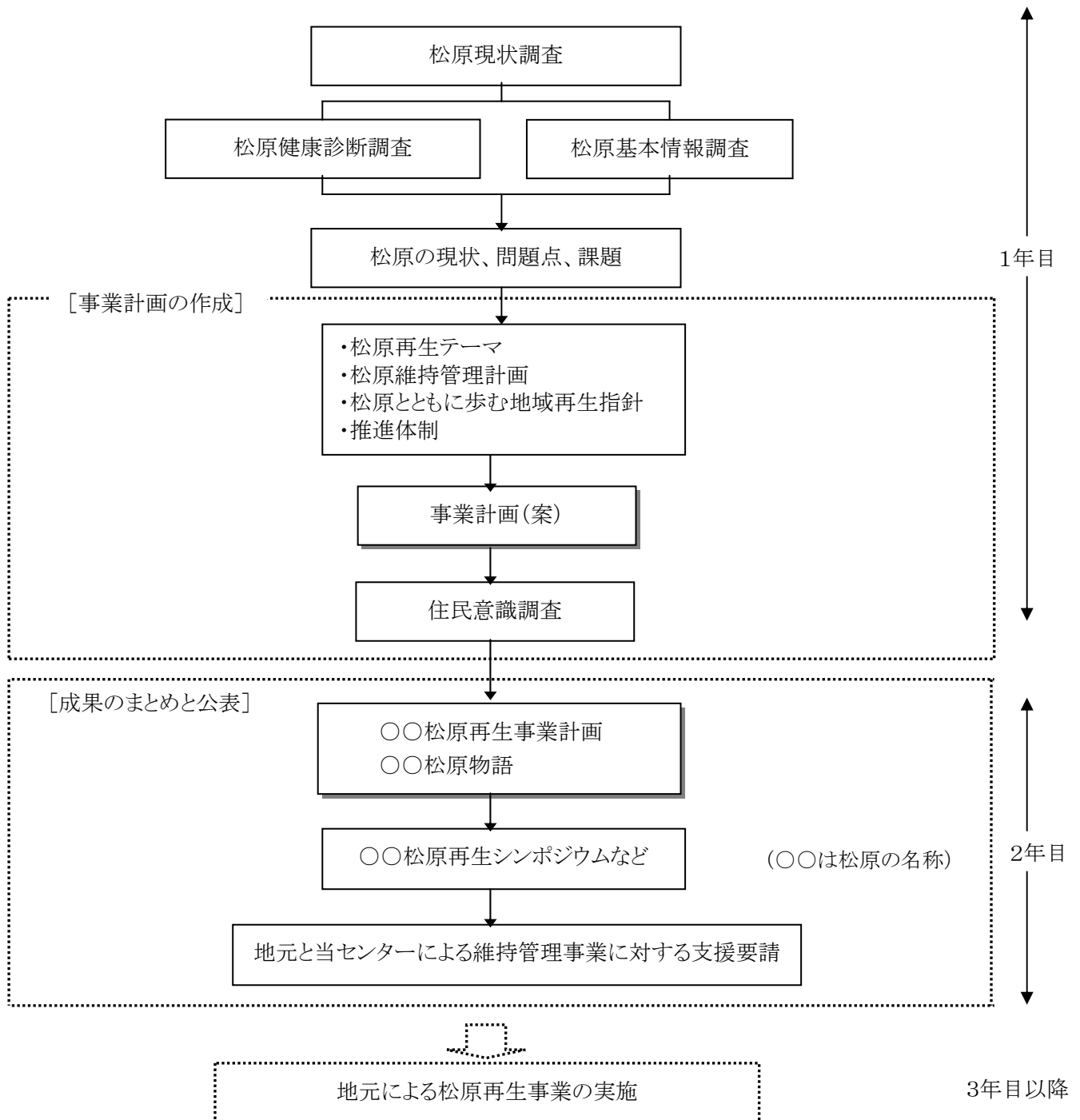
本構想は「100年後の松原に守られた美しい堅固な日本列島松回廊の起点」となるものです。

日本の松原再生事業のあらまし

体制



事業のフロー



事業の内容

1. 松原再生事業検討委員会

2年間の計画作成と運営を行う、地元の学識経験者、松原保全活動関係者、地場産業関係者、地域住民、行政および当センターで構成する委員会を編成する。

2. 松原現状調査

今の松原について健康診断と基本情報収集のため2つの調査を行う。

1) 松原健康診断調査

松原の維持管理に知見を有する学識経験者で構成する専門家グループ(当センターで編成)によって、樹勢診断、腐植の堆積、広葉樹の侵入など松原の健康状態を把握する調査を行う。

2) 松原基本情報調査

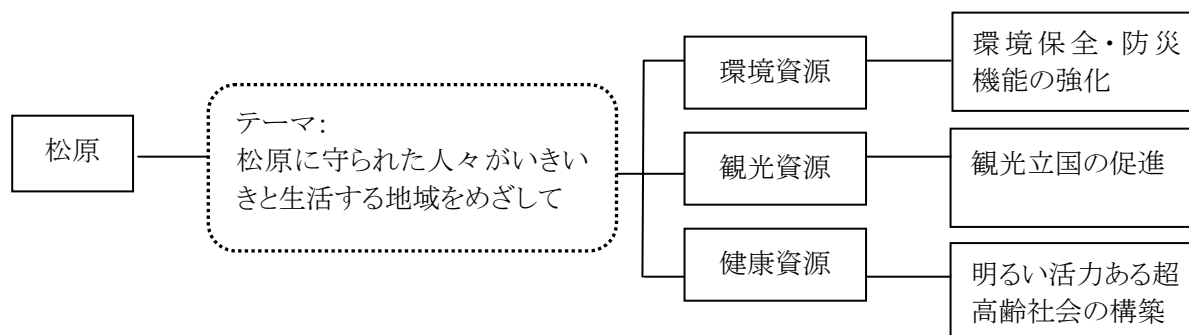
松原に関する次のような基本情報を収集整理する。

- (1) 松原の面積・構成と所有関係(国有林、民有林の区分)
- (2) 松原造成の経緯
- (3) 松原に守られている概ねの市街地面積、農地面積と主な作目
- (4) 松原の有する文化・歴史・民俗的な物語・役割・背景
- (5) 松原と地場産業との関わり
- (6) 松原と地域の人たちとの関わり(保全グループの活動、一般の人たちの利用など)

3. 事業計画の作成

1) 松原再生テーマの設定

松原をみんなで元気にする活動を進めることが、松原の3つの資源価値を高め、ひいては地元の人たちが元気になる3つの社会的意義の達成に結び付くことを目標とする松原再生テーマをつくる。



2) 松原維持管理計画の作成

「松原健康診断調査」の結果をもとに、当面3年間程度の維持管理計画を作成する。

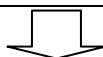
- (1) 維持管理方針
- (2) 松原全体面積のうち、事業対象とする区域面積とゾーニング区分
- (3) ゾーニング別の維持管理内容

下刈り、枯損木処理、広葉樹の抑制、腐植の除去、補植、散策路の補修など。

3) 松原とともに歩む地域再生指針の作成

松原再生テーマの実現に向けた具体的な取り組み指針をまとめる。

[視点]	[目標]
○松原の培ってきた文化・歴史・民俗的な意義の継承をどう進めるか	→ 自分たちの松原の価値を実感する
○津波など災害に備える助け合いの協力体制づくりに松原活動をどう活かすか	→ 津波に対する相互扶助体制づくりを促進する
○今ある松原の特色・特性を活かしてどんな景観をめざすか、どんな地場・観光産業の振興を促すか	→ 白砂青松の回復による原風景を復興し産業の活性化を図る
○地域の高齢者を孤立させず日常的な顔見知りの関係づくりに松原活動をどう活かすか	→ 松原の利活用による高齢者の健康増進や社会参加を促す
○松原管理で発生する松材、腐植をどうリサイクルするか	→ 用途や利用技術の開発による松材等の需要を喚起する
○松原を元気にする活動に地域の人たちをどう巻き込むか	→ 松原を元気にする活動エネルギーを持続させる
○国・地方公共団体事業とどう連携するか	→ 多様な事業の推進方法を探る
○全国の松原市町村へ白砂青松をどうつなげていくか	→ モデル事業の波及効果を高める



実現に向けた取り組み指針

4) 推進体制の整備

3年目以降の事業を進めるため、既存の松原保全に取り組む会やグループ、商工会、観光協会、自治会など松原保全活動に巻き込むことが効果的な関係組織・団体による推進協議会などを発足させる。

5) 事業計画(案)

上記1)から4)の検討結果をもとに、事業計画(案)をまとめる。

6) 住民意識調査

事業計画(案)に対する地域住民の意見をアンケート調査、ホームページでのパブリックコメントなどにより把握する。

4. 事業成果のまとめと公表

1)「〇〇松原再生事業計画」

「3. 事業計画の作成」で検討した内容をもとに、再生事業計画とその概要版を作成する。

2)「〇〇松原物語」

「松原基本情報調査」で収集した資料をもとに、子供たちも含め地域の人たちや訪れる人たちに松原のことを理解してもらう普及資料として小冊子を作成する。

3)「〇〇松原再生シンポジウム」など

再生事業計画概要版、松原物語をもとに、2年間の事業成果を公表するため、地元でシンポジウムなどを開催する。

4)地元と当センターによる維持管理事業に対する支援要請

当面3年間の維持管理に要する事業費に対して、民間企業の社会貢献活動や市民からご支援をいただくための要請を地元と当センターにより行う。

事業費

当センターは2か年の計画作成に要する事業費(おおむね1箇所 250 万円程度)を負担する。

	区 分	内 容
計 画 作 成	検討委員会開催費	地元で開催する検討委員会に出席する地元関係者以外の外部委員の旅費、謝金。
	松原健康診断調査費	専門家グループによる現地調査、維持管理計画作成に伴う旅費、謝金。
	住民意識調査費	調査票印刷費、郵送料。
	松原再生事業計画(概要版)作成費	印刷費(500部程度)。
	松原物語作成費	印刷費(500部程度)。
	松原再生シンポジウム等開催費	会場借料、外部の基調講演者・パネリストの旅費・謝金。
	調査事務費	調査準備、調査票の発送、調査結果の集計・整理に要する賃金。

子供の松原再生プロジェクトのあらまし

全国の海岸線に接する市町村(平成16年度で991市町村)において松を植え松に親しむ活動を行う。

1)実施方法

市町村、商工会、観光協会、農林水産業団体など(以下、市町村等)が地元の海岸線に近い小学校6年生による卒業記念に松の植樹と松に親しむイベントを立案・実施する。

市町村等は、2)に示す植樹の計画を作成するとともに、植樹を行う場所と小学校の選定、看板・苗木代以外の植樹に要する費用を負担する。

当センターは、表示板・抵抗性松苗木(500本)、支柱の提供、派遣する松保護士の旅費・謝金、パインレスキュー隊の認証、全国植樹マップへの記載、松に関する小冊子・DVDの提供を行う。

2)植樹計画の作成

市町村等は、以下の項目について植樹計画を作成する。

植樹計画の内容

- 1) 小学校6年生の卒業記念として植樹(植栽の目安は2m×1m、おおむね500本程度、面積1,000㎡相当)を行う
- 2) 植樹場所の選定理由を書く
- 3) 植樹計画図を作成する
- 4) 記念植樹の表示板を設置する(松に対する自分たちの思いを一言そえる、30文字以内)
- 5) 植樹とイベントに参加する人たちの内訳を示す
- 6) 当日の進め方(どのように、だれをよんで、PR方法など)
- 7) 松に親しむイベントの内容(講演、作文募集など自由に考える)
- 8) 「パインレスキュー隊」と呼ぶ在校生で植えた松の手入れを行う会を学校内に作る
- 9) 植樹の時に松保護士による植樹の要領と手入れの解説を行う
- 10) 翌年の6年生や近隣の小学校へ松の植樹をリレーするアイデア、植樹の輪を広げる工夫をする



左：マツノザイセンチュウの接種
右：抵抗性松の育成畑

「抵抗性松」とは、マツノザイセンチュウが樹体内に侵入しても枯れにくい松のこと。激害林で健全に生き残っているマツノザイセンチュウに強いと思われる松を集め、あらためてマツノザイセンチュウを人為的に接種し、マツノザイセンチュウに強い松を選抜し、増殖。平成17年度末現在で、マツノザイセンチュウに強いクロマツが41品種、アカマツが135品種開発され、各地で普及。

「日本の松原再生事業」と「子供の松原再生プロジェクト」

はじめに

日本の松原再生運動は幅広い人たちによる参加、協働、継続を基本に進めるものです。それには全国各地で運動を立ち上げるきっかけを与えることが大切です。松原を元気にし、さらに地域の人たちも元気になるわかり易い事例として、「日本の松原再生事業」と「子供の松原再生プロジェクト」を行います。

「日本の松原再生事業」募集案内

日本の松原再生事業とは

日本の白砂青松100選などに選ばれた松原で、松原を元気にする活動を進めることが松原の資源価値を高め、さらに地域の人たちも元気になる社会的意義に結び付くことをめざすモデルを作るものです。

募集要項

1. 応募資格

日本の白砂青松100選に選定された松原およびそれらに類する松原で、かつ海岸線に立地する松原を保有する市町村の関係者で、例えば、次のような組織、団体を対象とします。

- 1) 当該松原のある地方公共団体の所管課
- 2) 上記1)と一体となって当該松原の保全活動を行っている地元の複数の人員で構成されている会やグループ

2. 応募手続き

- 1) 応募受付期間および受付場所(応募書類の郵送先)

期間 平成18年6月1日(木)～7月31日(月)《期間厳守》

郵送先 財団法人 日本緑化センター 日本の松原再生事業係

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル 2F

TEL:03-3585-3561 FAX:03-3852-7714

3. 応募手続きに必要な書類

日本の松原再生事業申込書(様式第1号による)。申込書は当センターホームページ <http://www.jpgreen.or.jp> www.pinerescue.jp からダウンロードできます。

4. 選考結果の通知

日本列島松回廊構想検討委員会により応募内容を検討し、平成18年度の事業を1件採択します。その結果は、平成18年8月下旬頃、応募者あてに通知するとともに、ホームページで公表します。

「子供の松原再生プロジェクト」募集案内

子供の松原再生プロジェクトとは

松枯れ被害などにより松がなくなった海岸に、もう一度松を植えることを通して、小学生や地域の人たちによる松原に親しむ環境教育的な機会を作り出すものです。

募集要項

1. 応募資格

全国の海岸線に接する市町村の関係者で、例えば、次のような組織、団体を対象とします。

- 1) 海岸線のある地方公共団体の所管課など
- 2) 海岸線のある市町村の商工会、観光協会、農林水産業団体など

2. 応募手続き

- 1) 応募受付期間および受付場所(応募書類の郵送先)

期間 平成18年6月1日(木)～7月31日(月)《期間厳守》

郵送先 財団法人 日本緑化センター 子供の松原再生プロジェクト係

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル 2F

TEL:03-3585-3561 FAX:03-3852-7714

3. 応募手続きに必要な書類

子供の松原再生プロジェクト申込書(様式第2号による)。申込書は当センターホームページ <http://www.jpgreen.or.jp> www.pinerescue.jp からダウンロードできます。

4. 選考結果の通知

日本列島松回廊構想検討委員会により応募内容を検討し、平成18年度のプロジェクトを5件採択します。その結果は、平成18年8月下旬頃、応募者あてに通知するとともに、ホームページで公表します。

<参考> 日本列島松回廊構想検討委員会の構成

委員長	上島 重二	(財)日本緑化センター会長、三井物産(株)顧問
委員	阿比留 雄	日本原子力発電(株)相談役
	小林 富士雄	(社)大日本山林会会長
	塩谷 喜雄	日本経済新聞社論説委員
	鹿野 久男	財団法人 休暇村協会常務理事
	清水 慎一	JTB(株)常務取締役
	進士五十八	東京農業大学造園科学科教授
	宮下 充正	(社)日本ウォーキング協会副会長
オブザーバー	島田 泰助	林野庁森林整備部長

1. 事業実施主体

組織・団体名		所管課・係	
代表者名		担当者名	
住所	〒		
電話番号		FAX 番号	
E-mail アドレス			

2. 松原の基本情報

1) 松原の名称

ふりがな
名称

2) 松原の主要な部分の位置している所在地

所在地
松原の規模、樹齢など 幅_____km 平均幅_____km 長さ_____km 面積_____ha 樹齢_____年
保安林、文化財、公園などの指定(名称、指定年)

3) 松原の生い立ち、歴史的経緯、伝説、名前の由来など(400字以内)。

5) 住民意識調査（どのような方法でみんなの意見を聞くか）

6) 松原シンポジウムなど（2年間の事業成果をどのような進め方でみんなに伝えるか）

5. 添付資料

1) 松原の写真

砂浜の右ないし左からの全景、松原の内部、眺望点からの全景、さらに航空写真（既に撮影したものがあれば）。デジカメ画像ファイル、DPE プリント、35mm スライド（ポジ）のいずれか。

2) 事業計画図

松原平面図に事業計画区域を記載したもの。

3) 松原の生い立ちなどを記載している関係資料（コピー可）

4) 最近2～3年間の松原で実施した活動などの資料、新聞記事

平成18年度 子供の松原再生プロジェクト申込書

1. 実施主体

組織・団体名		所管課・係	
代表者名		担当者名	
住所	〒		
電話番号		FAX 番号	
E-mail アドレス			

2. 植樹計画

1) 植樹をする小学校(名称、連絡先)

2) 植樹場所の概要(所有者、植樹面積、松枯れ被害の経緯など)

3) 植樹場所の選定理由(100字以内)

4) 記念植樹の表示板に記載する「松に対する自分たちの思い」(30文字以内)

(以下の項目の字数は任意)

5) 植樹とイベントに参加する人たちの内訳

6) 当日の進め方(どのように、だれをよんで、PR方法など)

7) 植樹とともに行うイベントの内容

8) 小学校に作る「パインレスキュー隊」の学年、人数

9) 植樹の時に来てもらう松保護士へのリクエスト

